

Pioneer

DEH-P540

CD/USB/チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

必ずお読みください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。



警告

[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

必ずお読みください

目次

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください……………2

- 絵表示について
- 安全上のご注意

はじめに

本書のみかた……………8

各部のなまえ……………9

ディスプレイの表示内容……………10

別売のリモコン

「CD-R500」について……………11

本機の特徴……………12

50枚型マルチCDプレーヤーの

使用について……………13

バッテリー上がりを防ぐために……………13

サブウーファーの設定について……………14

すぐに使う

本機をひととおり操作する……………16

- 電源をONにする
- ソースを切り換える
- 音量を調節する
- 電源をOFFにする

CDのふだんの操作……………18

- CDを再生する
- フォルダー(ディスク)を選ぶ
- 曲を選ぶ
- 早送り・早戻しする
- CDを取り出す

ラジオのふだんの操作……………20

- バンドを選ぶ
- プリセット番号順に受信する
- 放送局を選ぶ

USB機器のふだんの操作……………22

- USB機器の曲を再生する
- フォルダーを選ぶ
- 曲を選ぶ
- 早送り・早戻しする

iPodのふだんの操作……………24

- iPodの曲を再生する
- 曲を選ぶ
- 早送り・早戻しする

よく使う機能をボタンで手軽に操作する…26

CDを聞く

ファンクションメニューの

切り換えかた……………28

繰り返し再生する……………29

違う曲順で再生する……………30

曲/フォルダー/ディスクを探す……………30

再生を一時停止する……………31

音を補正して高音質化する……………32

音を聞きやすくする……………33

聞きたい曲を指定する……………34

指定した曲だけ再生する……………35

曲の指定を1曲ずつ解除する……………35

曲の指定をCDごと解除する……………36

タイトルやアーティスト名を表示する…36

タイトルから曲やフォルダーを探す…37

ラジオを聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………38
- 複数の放送局を自動的に登録する ……38
- 放送局を1局ずつ登録する ……39
- 登録した放送局を呼び出す ……39

USB機器の曲を聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………40
- タイトルやアーティスト名を表示する …41
- タイトルから
聞きたいフォルダーや曲を探す ……41

iPodの曲を聞く

- 曲を探す……………42
- ファンクションメニューの
切り換えかた……………43
- 違う曲順で再生する……………44
- すべての曲を
シャッフルしてから再生する ……44
- 再生中の曲にリンクした
リストにショートカットする ……45
- iPodで選曲して本機から再生する ……46
- オーディオブックの
再生速度を変更する ……47
- タイトルやアーティスト名を表示する …47

す ぐ に 使 う

必ずお読みください

はじめに

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器の曲を聞く

iPodの曲を聞く

Bluetooth対応プレーヤーの曲を聞く

Bluetooth対応の携帯電話を使う

音を調節する

初期設定を変更する

便利な機能を使う

その他（付録）

Bluetooth対応プレーヤーの曲を聞く

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	48
Bluetooth対応プレーヤーの ふだんの操作	48
ファンクションメニューの 切り換えかた	49
本システムのデバイス情報を確認する	50

Bluetooth対応の携帯電話を使う

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	52
電話の待ち受けソースにする	52
音声操作で電話をかける	53
かかってきた電話に出る	53
かかってきた電話を切る (着信拒否)	54
電話番号を入力して電話をかける	55
履歴から電話をかける	55
ファンクションメニューの 切り換えかた	56
携帯電話を接続する	58
Bluetooth接続を解除する	59
携帯電話を登録する	59
登録されている携帯電話を接続する	60
携帯電話の登録を削除する	61
データを消去する	61
着信拒否を設定する	62
自動着信を設定する	62
着信音の設定をON / OFFする	63
通話中のノイズやエコーを軽減する	63

音を調節する

オーディオ調節メニューの 切り換えかた	64
前後左右の音量バランスを調節する	65
イコライザーカーブを選択する	66
イコライザーカーブを大まかに補正する	67
イコライザーカーブを細かく調節する	67
小さな音量でも聞きやすくする	68
サブウーファーを使う	69
サブウーファーの ON / OFFと位相切り換え	69
サブウーファーの カットオフ周波数選択とレベル調節	70
低い音を出力しない	71
低い音を強調する	72
各ソースの音量をそろえる	73

初期設定を変更する

初期設定メニューの切り換えかた	74
時計を合わせる	75
外部機器 (AUX) の 音声を聞けるようにする	75
ボタンの イルミネーションの色を切り換える	76
リアスピーカー出力端子 / RCA出力端子の設定をする	77
スクロールの設定を切り換える	78
Bluetoothオーディオの ソースをONにする	78
Bluetoothのパスコードを変更する	79
Bluetoothのバージョンを表示する	80

便利な機能を使う

- ミュート機能について……………82
- エクスターナルユニットを使う……………82
- 交通情報を受信する……………83
- 時計を表示する……………84

その他（付録）

- CDの正しい使いかた……………86
 - WMA / MP3 / AAC / WAV
 - ファイルについて……………88
- ディスク内のフォルダーについて……………90
- USB機器について……………91
- USB機器内のフォルダーについて……………91
- iPodについて……………92
- 故障かな？と思ったら……………94
- こんなメッセージが表示されたら……………95
- 保証書とアフターサービス……………97
- 商標・著作権など……………98
- おもな仕様……………99

すぐを使う

必ずお読みください

はじめに

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器の曲を聞く

iPodの曲を聞く

Bluetooth対応プレーヤーの曲を聞く

Bluetooth対応の携帯電話を使う

音を調節する

初期設定を変更する

便利な機能を使う

その他（付録）

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CDやラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CDを聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて



注意マーク

安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。



用語説明マーク

操作や機能などの用語について説明しています。



メモマーク

操作上のヒントや便利な使いかたなどについて説明しています。

CD CDマーク

内蔵CDプレーヤーで、CDを再生するときの操作方法を説明しています。

ROM CD-ROMマーク

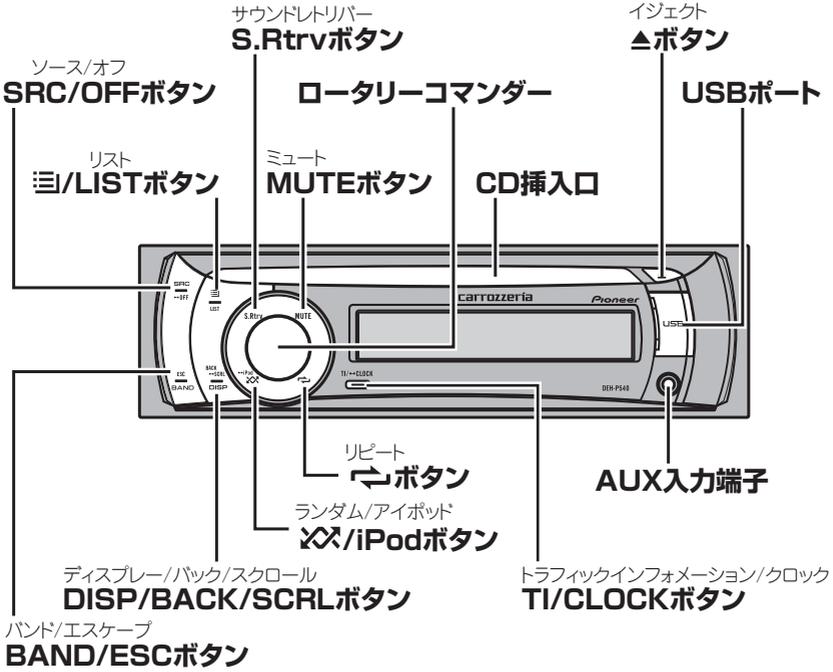
内蔵CDプレーヤーで、WMA / MP3 / AAC / WAVファイルを再生するときの操作方法を説明しています。

MCD マルチCD マーク

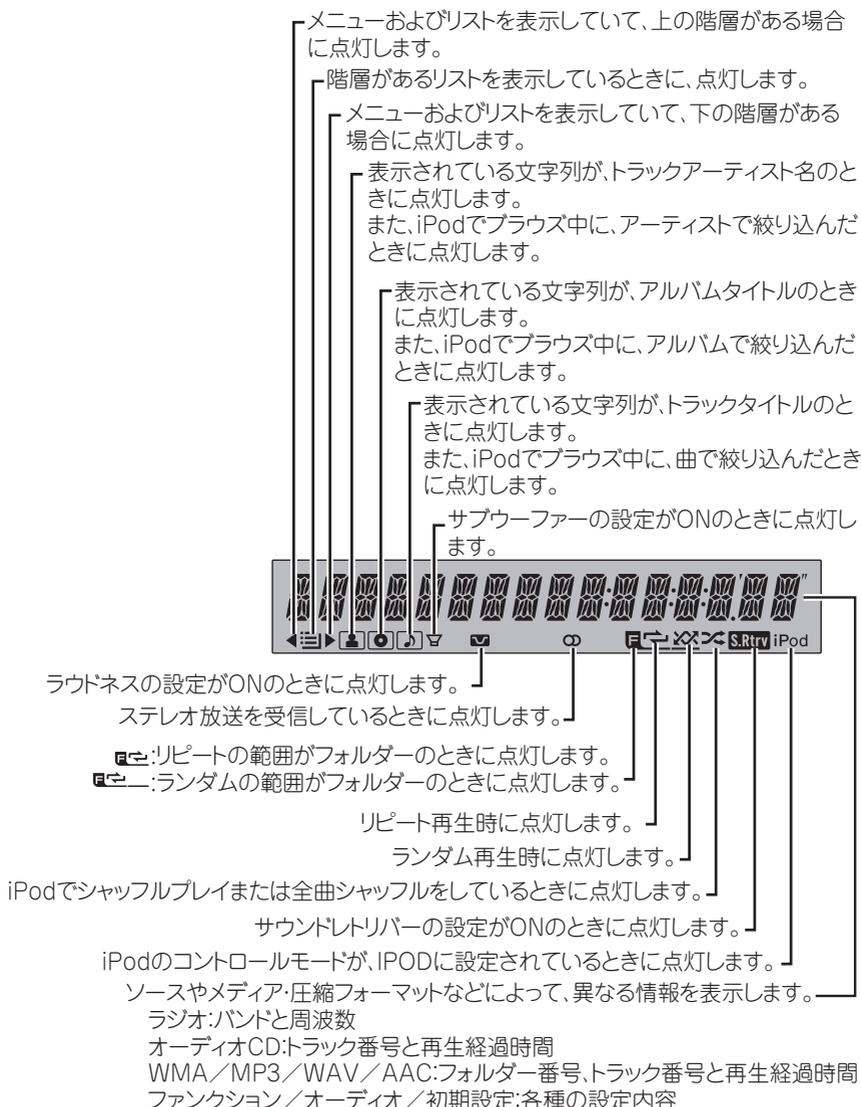
別売のマルチCDプレーヤーを本機に接続したときの操作方法を説明しています。

各部のなまえ

本体

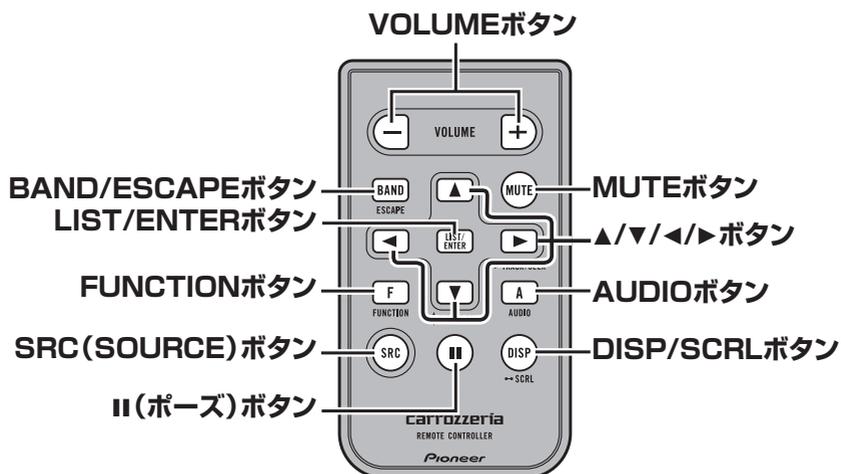


ディスプレイの表示内容



別売のリモコン「CD-R500」について

別売のリモコン「CD-R500」で、本機を操作できます。
リモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をお読みください。



はじめに

メモ

●▲/▼/◀/▶ボタンは、ロータリーコマンドアの「上、下、左、右に操作する」と同じ働きをします。

本機の特徴

多様なメディアと 圧縮フォーマットに対応

本機は、音楽CDのほか、次のメディアに収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。

- ・ CD-R / CD-RW
- ・ USBポータブルオーディオプレーヤー
- ・ USBメモリー

対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。

- ・ WMA
- ・ MP3
- ・ AAC
- ・ WAV

対応とご注意について詳しくは、**➔88～92ページ**。

また、iPodの接続にも対応しています。

さらに、圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する機能として、「アドバンスド・サウンドレトリバー」を搭載しています。この機能により、CDに迫る音質での再生が可能になります。

本機と別売のBluetooth用アダプター（例：CD-BTB10）を組み合わせると、Bluetooth対応のオーディオプレーヤーの再生やBluetooth対応の携帯電話でのハンズフリー通話をワイヤレスで実現できます。

USB機器の接続

対応するUSB機器や接続時のご注意については**➔91、101ページ**。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときにUSB機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。
- USB機器を本機に接続する際は、USBケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USBケーブルを使わずに直接接続すると、USB機器が突起物となり危険です。

iPodの接続

本機は、iPodを本機のUSBポートに接続して操作できます。メインユニット側からの操作はもちろん、「コントロールモード」によってiPod側からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応するiPodや接続時のご注意については**➔92ページ**。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときにiPodのデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

50枚型マルチCD プレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

バッテリー上がりを 防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON（またはACC）にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。



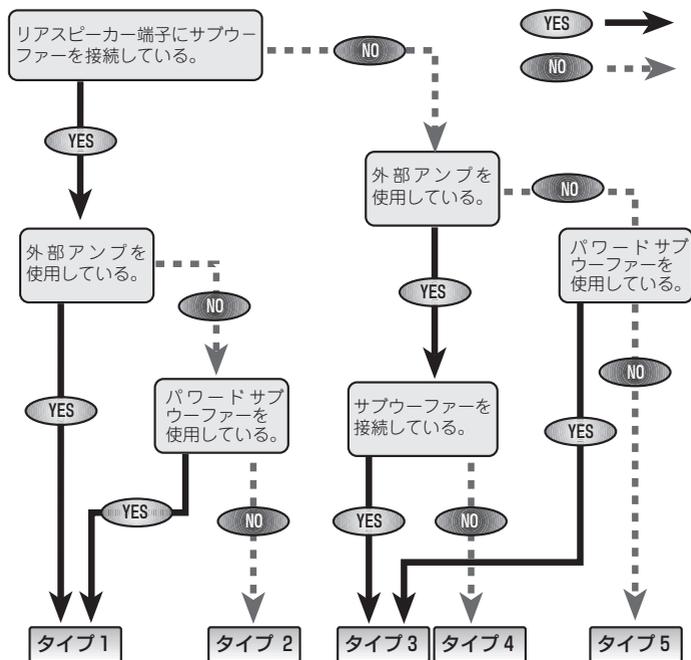
ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

サブウーファーの設定について

サブウーファーを組み合わせている場合、本機でサブウーファーの設定ができます。サブウーファーの設定方法は、接続方法やシステムによって大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、正しく設定してください。

はじめに



タイプ1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファァーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

- 1 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をREAR SP :SUB Wにする
(➡77ページ)
- 2 オーディオ調節メニューで、SW SETTING 1をONにする
(➡69ページ)
- 3 必要な場合は、各メニューで微調整する
(➡64ページ)

タイプ2

- 1 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をREAR SP :SUB Wにする
(➡77ページ)
- 2 オーディオ調節メニューで、SW SETTING 1をONにする
(➡69ページ)
- 3 必要な場合は、各メニューで微調整する
(➡64ページ)

タイプ3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファァーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

- 1 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をREAR SP :FULLにする
(➡77ページ)
- 2 初期設定メニューで、RCA出力設定をPREOUT :SUB Wにする
(➡77ページ)
- 3 オーディオ調節メニューで、SW SETTING 1をONにする
(➡69ページ)
- 4 必要な場合は、各メニューで微調整する
(➡64ページ)

タイプ4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をREAR SP :FULLにする
(➡77ページ)
- 2 初期設定メニューで、RCA出力設定をPREOUT :REAR にする
(➡77ページ)

タイプ5

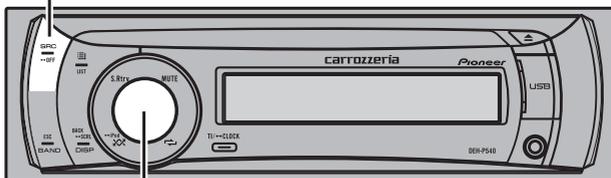
- 1 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をREAR SP :FULL にする
(➡77ページ)
- 2 初期設定メニューで、RCA出力設定をPREOUT :REAR にする
(➡77ページ)

本機をひとつおりの操作する

ここでは、電源を入れてから切るまでのひとつおりの操作を説明しています。使うボタンは、SRC/OFFとロータリーコマンドです。

この操作で使うボタンなど

SRC/OFFボタン



ロータリーコマンド

1 SRC/OFFを押して、電源をONにする

本機の電源がON になります。



お知らせ

- ディスクをCD挿入口に差し込んだときも、電源がONになります。

2 SRC/OFFを押して、ソースを切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。

- TUNER (ラジオ : FM/AM)
- ↓
- COMPACT DISC (内蔵CD)
- ↓
- MULTI CD (マルチCD) (別売)
- ↓
- USBまたはUSB-IPOD (別売)
- ↓
- EXTERNAL(エクスターナル1) (別売)
- ↓
- EXTERNAL(エクスターナル2) (別売)
- ↓
- AUX1 (外部機器1) (別売)
- ↓
- AUX2 (外部機器2) (別売)
- ↓
- BT AUDIO (Bluetoothオーディオ) (別売)
- ↓
- TELEPHONE (Bluetooth携帯電話) (別売)



ソースとは

SRC/OFFを押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです。

- 電源をONにする ● ソースを切り換える
- 音量を調節する ● 電源をOFFにする

エクスターナル

本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品(将来発売されるパイオニア製品など)を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2 台のエクスターナル製品を接続できます。この場合、エクスターナル1 とエクスターナル2 が自動で設定されます。

3 ロータリーコマンドを回して、音量を調節する

大きくする : 右回し

小さくする : 左回し

音量の調整範囲は0 ~ 62です。

約4秒間、音量の値が画面に表示されます。

4 SRC/OFFを長く押して、電源をOFFにする

電源がOFFになります。

ご注意

- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・ 対応する機器を接続していない
 - ・ ディスクまたはマガジンをセットしていない
 - ・ AUXソースをOFFにしている (→75ページ)
 - ・ BT AUDIOソースをOFFにしている (→78ページ)
- USB機器またはiPodを接続していないときは、該当のソースに切り換えても「NO DEVICE」と表示されます。
- AUX1 は初期設定ではONに設定されています。使用しない場合はOFFに設定してください (→75ページ)。
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナが伸びます。

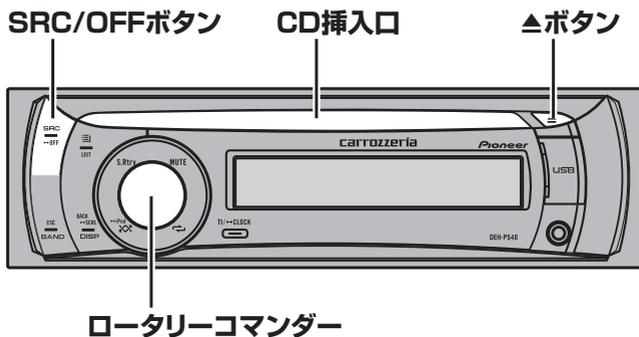
メモ

- CDをセットしたまま電源をOFFにすることもできます。
- 電源がOFFのときでも、▲を押してCDを取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源をOFFにしても時計は表示されます。

CDのふだんの操作

ここだけの操作で、CDを聞くことができます。
使うボタンは、SRC/OFF、ロータリーコマンド、▲です。

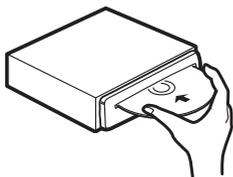
この操作で使うボタンなど



CD ROM

1 CDをCD挿入口に差し込む

再生が始まります。



ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD挿入口には、CD以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- CDシングル（8 cm CD）もアダプターなしで再生できます。アダプターは絶対に使用しないでください。

MCD

1 ソースがマルチCDになるまで、SRC/OFFを押す

再生が始まります。

ROM MCD

2 ロータリーコマンドを上下に操作して、フォルダー（ディスク）を選ぶ

- 次のフォルダー（ディスク）を選ぶ：上に操作する
前のフォルダー（ディスク）を選ぶ：下に操作する

3 ロータリーコマンドを左右に操作して、曲を選ぶ

- 次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

4 ロータリーコマンドを左右に操作し続けて、早送り／早戻しする

- 早送りする：右に操作し続ける
早戻しする：左に操作し続ける

- CDを再生する ● フォルダー (ディスク)を選ぶ
- 曲を選ぶ ● 早送り・早戻しする ● CDを取り出す



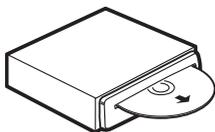
5 SRC/OFFを押して、他のソースに切り換える。または、SRC/OFFを長く押して、電源をOFFにする

再生が終わります。

CD ROM

6 ▲を押して、CDを取り出す

CDが出てきます。



ご注意

- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- CD/CD-R/CD-RWを使用するときのご注意については、▶86ページ。

メモ

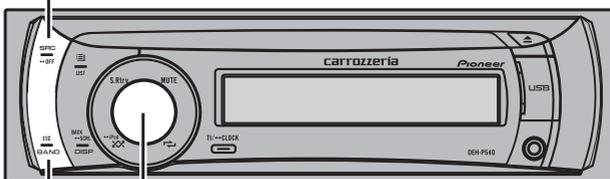
- 圧縮オーディオファイルの再生時は、BANDを長く押すと、フォルダー 01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、BANDを押します。再生は、切り換えた側の一番先頭の曲から始まります。
- 圧縮オーディオファイルに設定された、トラックタイトルやアーティスト名が表示できます (▶36ページ)。表示する設定になっている場合、ディスクを挿入したときや、ほかのソースから内蔵CDに切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロールします。
- 圧縮オーディオファイルを早送り/早戻ししているときは、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音された圧縮オーディオファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読み取ります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると、「READY」と表示されます。
- マルチCDの再生中にマガジンを取り出すと、「NO MAGAZINE」と表示されます。

ラジオのふだんの操作

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。
使うボタンは、SRC/OFF、BAND/ESC、ロータリーコマンドです。

必ず
この
操作
で
使う
ボタン
など

SRC/OFFボタン



ロータリーコマンド

BAND/ESCボタン

1 SRC/OFFを押して、
ソースをTUNERに切り換える

2 BAND/ESCを押して、
バンドを選ぶ

押すたびに次の順序で切り換わります。

→FM1
↓
FM2
↓
AM1
↓
AM2

3 ロータリーコマンドを上下
に操作して、プリセット番号
順に受信する (→39ページ)

次のプリセットチャンネルを選ぶ：
上に操作する
前のプリセットチャンネルを選ぶ：
下に操作する

4 ロータリーコマンドを左右
に操作して、放送局を選ぶ (手
動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ：
右に操作する
低い周波数の放送局を選ぶ：
左に操作する

- バンドを選ぶ ● プリセット番号順に受信する
- 放送局を選ぶ

画面の表示例



すぐに使う

5 ローターコマンドを左右に操作し続けて離し、放送局を自動で選ぶ (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ：
右に長く操作して離す
低い周波数の放送局を自動で選ぶ：
左に長く操作して離す

メモ

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます (→38、39ページ)。
- ローターコマンドを左右に操作している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

6 他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

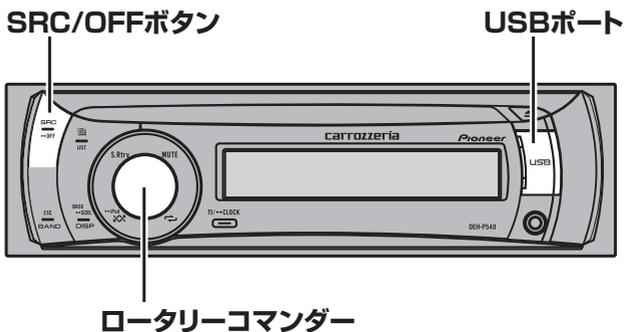
ラジオの受信が終わります。

USB機器のふだんの操作

ここだけの操作で、USB機器の曲を聞くことができます。
使うボタンは、SRC/OFF、ロータリーコマンドです。

す
べ
く
に
使
い
ま
す

この操作で使うボタンなど



1 USBポートのカバーを開けて、USB機器を接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをUSBに切り換える

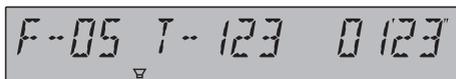
3 ロータリーコマンドを上下に操作して、フォルダーを選ぶ

次のフォルダーを選ぶ： 上に操作する
前のフォルダーを選ぶ： 下に操作する

4 ロータリーコマンドを左右に操作して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ： 右に操作する
前の曲を選ぶ： 左に操作する

- USB機器の曲を再生する ● フォルダーを選ぶ
- 曲を選ぶ ● 早送り・早戻しする



5 ロータリーコマンドを左右に操作し続けて、早送り／早戻しする

早送りする：右に操作し続ける

早戻しする：左に操作し続ける

6 USB機器を外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

再生が終わります。



ご注意

- 対応するUSB機器をご使用ください（➡91、100ページ）。ただし、対応するUSB機器でも正しく動作しない場合があります。
- USB機器を使用するときのご注意については、➡91ページ。



メモ

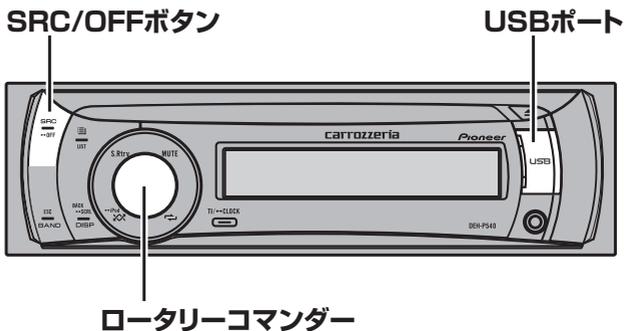
- USB機器は、いつでも本機から取り外すことができます。
- BANDを長く押しと、フォルダー01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- USB機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチがACCまたはONになっているときにUSB機器のバッテリーが充電されます。
- USB機器の情報を読み取るため、再生までに時間がかかります。この間、「FORMAT READ」と表示されます。

iPodのふだんの操作

ここだけの操作で、iPodの曲を再生できます。
使うボタンは、SRC/OFF、ロータリーコマンドです。

す
べ
く
に
使
い
ま
す

この操作で使うボタンなど



1 USBポートのカバーを開けて、iPodを接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをUSB-IPODに切り換える

3 ロータリーコマンドを左右に操作して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ : 右に操作する
前の曲を選ぶ : 左に操作する

4 ロータリーコマンドを左右に操作し続けて、早送り/早戻しする

早送りする : 右に操作し続ける
早戻しする : 左に操作し続ける

- iPodの曲を再生する ● 曲を選ぶ
- 早送り・早戻しする



5 iPodを外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

再生が終わります。

ご注意

- iPodにはiPod用USB変換ケーブルのみを接続してください。iPod用USB変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPodからヘッドホンを外してください。
- iPodを使用するときのご注意やiPodの設定については→92ページ。
- 再生範囲が1曲リピートのときは、ロータリーコマンドを左右に操作して曲を選ぶことはできません。

メモ

- 再生しているオーディオブックやPodcastにチャプターがある場合、チャプターが選べます。
 - ・ 次のチャプターを選ぶ：ロータリーコマンドを右に操作する
 - ・ 前のチャプターを選ぶ：ロータリーコマンドを左に操作する
- エンジンスイッチがACCまたはONになっている場合、iPodのバッテリーが充電されます。
- iPodは本機に接続されている間、iPod自身で電源をON / OFFすることはできません。
- エンジンスイッチをOFFにして約2分後に、本機に接続されているiPodの電源がOFFになります。

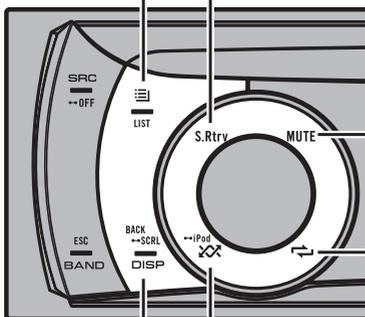
よく使う機能をボタンで手軽に操作する

≡ / LISTボタン

- 押すと、ソースごとに異なるリストが表示されます。
 - ・ COMPACT DISC → 37ページ
 - ・ TUNER → 39ページ
 - ・ USB → 41ページ
 - ・ USB-IPOD → 42ページ
 - ・ TELEPHONE → 55ページ
- USB-IPODソースのときに長く押すと、リンクプレイモードになります (→45ページ)。

S.Rtrvボタン

- COMPACT DISC、USB、USB-IPODソースのときに押すと、アドバンスド・サウンドレトリバーの設定を切り換えることができます (→32、40、43ページ)。



MUTEボタン

- 押すと、音声がミュートされます。もう一度押すと、ミュートが解除されます。

⇄ (リピート) ボタン

- COMPACT DISC、MULTI CD、USB、USB-IPODソースのときに押すと、再生範囲の設定を切り換えることができます。

DISP/BACK/SCRLボタン

- 押すたびに、ディスプレイの表示を切り換えることができます。
- 長く押すと、ディスプレイの表示をスクロールできます。
- ファンクションメニューやオーディオメニュー、初期設定メニューの表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。長く押すと、メインメニューに戻ります。



メモ

- ディスプレイの表示を変えられないソースもあります。

⚡ (ランダム) / iPodボタン

- COMPACT DISC、MULTI CD、USBソースのときに押すと、ランダムプレイをON / OFFできます。
- USB-IPODソースのときに押すと、全曲シャッフルがONになります。
- USB-IPODソースのときに長く押すと、コントロールモードを切り換えることができます (→46ページ)。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをCOMPACT DISC (内蔵CD) またはMULTI CD (マルチCD) にする (⇒16ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

CD ROM

- REPEAT (再生範囲切換) (⇒29ページ)
- ↓
- RANDOM (ランダムプレイ設定) (⇒30ページ)
- ↓
- SCAN (スキャンプレイ設定) (⇒30ページ)
- ↓
- PAUSE (ポーズ設定) (⇒31ページ)
- ↓
- ← SOUND RETRIEVER (アドバンスド・サウンドレトリバー設定) (⇒32ページ)

MCD

- REPEAT (再生範囲切換) (⇒29ページ)
- ↓
- RANDOM (ランダムプレイ設定) (⇒30ページ)
- ↓
- SCAN (スキャンプレイ設定) (⇒30ページ)
- ↓
- PAUSE (ポーズ設定) (⇒31ページ)
- ↓
- COMP/DBE (コンプレッション設定) (⇒33ページ)
- ↓
- ITS PLAY (ITSプレイ設定) (⇒35ページ)
- ↓
- ← ITS MEMORY (ITS指定) (⇒34、35、36ページ)



メモ

- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

繰り返し再生する

REPEAT

曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

1 ロータリーコマンドーを操作して、REPEATに切り換える（⇒28ページ）

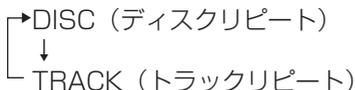
2 ロータリーコマンドーを押して、REPEATを選ぶ

現在の再生範囲が表示されます。

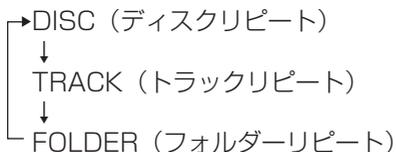
3 ロータリーコマンドーを回して、再生範囲を切り換える

次の順序で切り換わります。

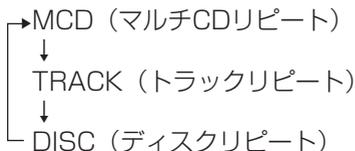
CD



ROM



MCD



ディスクリピート：
いま聞いているディスクを繰り返し再生します。

トラックリピート：
いま聞いている曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

マルチCDリピート：
マルチCDにセットされている、すべてのディスクを繰り返し再生します。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- 再生範囲の設定の切り換えは、でも操作できます（⇒26ページ）。
- 選んだ再生範囲は、次の機能の再生範囲に影響します。
 - ・ランダムプレイ
 - ・スキャンプレイ
 - ・ITSプレイ
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。
- 再生範囲の切り換えは、でも操作できます（⇒26ページ）。

違う曲順で再生する

RANDOM

曲やCDを順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダムプレイする範囲を選んでおく

ランダムプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます(→29ページ)。

2 ロータリーコマンダーを操作して、RANDOMを選ぶ(→28ページ)

3 ロータリーコマンダーを押して、ランダムプレイ設定をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。もう一度押すと、OFFになります。

4 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
 - ・CD / マルチCD : ディスクリピート
 - ・圧縮オーディオ : フォルダールリピート
- ランダムプレイのON / OFFの切り換えは、 \times /iPodでも操作できます(→26ページ)。

曲 / フォルダール / ディスクを探す

SCAN

曲やフォルダール、ディスクのはじめの約10秒を次々に再生できます。聞きたい曲やフォルダール、ディスクを探すときに便利です。

1 スキャンプレイする範囲を選んでおく

スキャンプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます(→29ページ)。

■聞きたい曲を探すとき

CD再生時は、ディスクリピートに切り換えます。圧縮オーディオの再生時は、フォルダールリピートに切り換えます。

選んだ再生範囲内のすべての曲を、約10秒ずつ再生します。

■聞きたいフォルダールを探すとき

圧縮オーディオの再生時に、ディスクリピート(USBの場合はオールリピート)に切り換えます。

全フォルダールの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

■聞きたいディスクを探すとき

ソースがマルチCDのときに、マルチCDリピートに切り換えます。

マルチCD内の全ディスクの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

2 ロータリーコマンダーを操作して、SCANを選ぶ(→28ページ)



メモ

- スキャンプレイ設定がONになっている場合は、SCAN:ONと表示されます。

3 ローターコマンドを押して、スキャンプレイ設定をONにする

曲やフォルダー、ディスクのはじめの約10秒間が次々に再生されます。

スキャンプレイを始めて30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、ロータリーコマンドを押す

スキャンプレイ設定がOFFになります。選んだ曲やフォルダー、ディスクが聞き続けられます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でスキャンプレイ設定を選びます。次に、ロータリーコマンドを押すと、スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- スキャンプレイを始めた曲やフォルダー、ディスクまで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がトラックリピートのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
 - ・CD / マルチCD : ディスクリピート
 - ・圧縮オーディオ : フォルダーリピート

再生を一時停止する

PAUSE

曲の再生を一時停止できます。

1 ローターコマンドを操作して、PAUSEを選ぶ (→ 28ページ)

2 ローターコマンドを押して、再生を一時停止する

もう一度押すと、再生を再開します。

3 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

音を補正して高音質化する

SOUND RETRIEVER

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。



アドバンスド・サウンドレトリバーとは

圧縮音声は圧縮処理の際に、人が感じ取りにくい部分の音を、元の音から削除しています。アドバンスド・サウンドレトリバーでは、削除された部分の音を補うことによって、音の密度感や抑揚感を向上させて再生します。

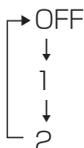
1 ロータリーコマンドーを操作して、SOUND RETRIEVERに切り換える (→28ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、SOUND RETRIEVERを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります



メモ

- サウンドレトリバーの効果は、1より2の方が大きくなります。

4

ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されず。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- サウンドレトリバーの設定の切り換えは、S.Rtrvでも操作できます (→26ページ)。

音を聞きやすくする

COMP/DBE

再生しているCDの音質に簡単な補正をかけ、より聞きやすい音に調節できます。COMPとDBEの2つの機能が用意されており、CDの音質を手軽に調節できます。



ご注意

- COMP (DBE) 機能のないマルチCDを組み合わせたときは、操作できません。「NO COMP」と表示されます。



COMP

COMPは、「Compression (コンプレッション)」の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を抑える機能です。



DBE

DBEは、「Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス)」の略です。車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1

ロータリーコマンドーを操作して、COMP/DBEに切り換える (→28ページ)

2

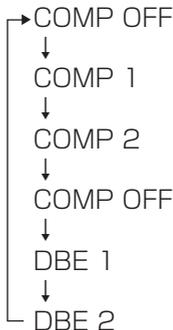
ロータリーコマンドーを押して、COMP/DBEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3

ロータリーコマンドーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- COMPとDBEの効果はどちらも、1より2の方が大きくなります。

4

ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

MCD

聞きたい曲を指定する

ITS MEMORY

ITSプレイ（→35ページ）で聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておきます。

**ITS**

- ITSは、「Instant Track Selection（インスタントトラックセレクション）」の略です。指定した曲だけを再生できます。ITSの指定は、ユーザーが解除するまで有効です。

1 ロータリーコマンドーを上下に操作して、指定したい曲の入ったCDを再生する（→18ページ）

2 ロータリーコマンドーを操作して、ITS MEMORYに切り換える（→28ページ）

3 ロータリーコマンドーを押して、ITS MEMORYを選ぶ
現在の設定内容が表示されます。

4 ロータリーコマンドーを押して、曲の番号を選ぶ
番号が点滅します。

5 ロータリーコマンドーを回して、指定したい曲に切り換える

次の曲にする： 右に回す
前の曲にする： 左に回す

6 ロータリーコマンドーを押して、曲を選ぶ

MEMORYが点滅します。

ロータリーコマンドーを回すと、MEMORYとDELETEが切り換わります。

7

MEMORYが点滅しているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ曲が指定されます。

MEMORY COMPLETEと2秒間表示され、指定が完了します。

8

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

**メモ**

- 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、曲の指定は解除されません。
- CD1枚につき、99曲まで指定できます（「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、指定できる曲は24曲目までになります）。
- ITSは、CD100枚ぶん指定できます。
- 100枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しいCDの曲が指定されます。

指定した曲だけ再生する

ITS PLAY

ITS指定 (→34ページ) で指定した曲だけを再生できます。

1 ITSプレイする範囲を選んでおく

ITSプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます (→29ページ)

2 ロータリーコマンダーを操して、ITS PLAYを選ぶ (→28ページ)

3 ロータリーコマンダーを押して、ITSプレイをONにする

ITS指定で指定しておいた曲が再生されます。

もう一度押すと、OFFになります。



メモ

- ITS指定されていない場合は、ONにできません。「ITS EMPTY」と表示されます。

4 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- 手順1で選んだ再生範囲に、指定した曲がない場合は、「ITS EMPTY」が2秒間表示され、ITSプレイは始まりません。

曲の指定を1曲ずつ解除する

ITS MEMORY

ITS指定 (→34ページ) で指定した曲を1曲ずつ解除できます。

1 ITSプレイをONにする (→35ページ)

2 ロータリーコマンダーを操作して、ITS MEMORYに切り換える (→28ページ)

3 ロータリーコマンダーを押して、曲の番号を選ぶ

番号が点滅します。

4 ロータリーコマンダーを回して、指定を解除したい曲に切り換える

次の曲にする： 右に回す

前の曲にする： 左に回す

5 ロータリーコマンダーを押して、曲を選ぶ

MEMORY が点滅します。

6 ロータリーコマンダーを回して、DELETEに切り換える

回すたびにMEMORYとDELETEが切り換わります。

7 ロータリーコマンダーを押して、曲の指定を解除する

再生中の曲の指定が解除され、次に指定されている曲の再生が始まります。

8 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- 現在の再生範囲に、ITS指定された曲がなくなった場合は、「ITS EMPTY」が2秒間表示され、ITSプレイがOFFになります。

MCD

曲の指定をCDごとに解除する

ITS MEMORY

ITS指定 (→34ページ) で指定した曲をCDごとに解除できます。

1 ITSプレイをOFFにする
(→35ページ)

2 ロータリーコマンドーを操作して、ITS MEMORYに切り換える (→28ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

番号が点滅します。

**メモ**

●曲の番号は特に指定する必要はありません。

4 ロータリーコマンドーを押して、MEMORYを選ぶ

MEMORY が点滅します。

5 ロータリーコマンドーを回して、DELETEに切り換える

回すたびにMEMORYとDELETEが切り換わります。

6 ロータリーコマンドーを押して、CDの指定を解除する

「MEMORY DELETE」と約2秒間表示され、再生中のCDの指定が解除されます。

7 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

ROM

タイトルやアーティスト名を表示する

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。また、隠れている文字をスクロール表示することもできます。

**ご注意**

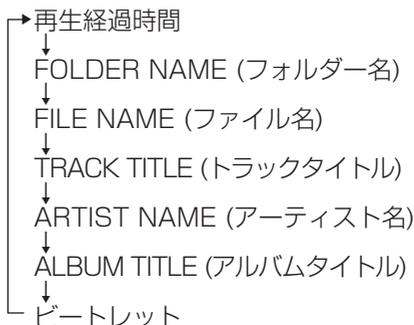
●本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFを押して、ソースをCOMPACT DISC (USBの場合はUSB) にする (→16ページ)

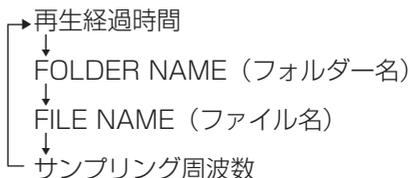
2 DISP/BACK/SCRLを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。

■WMA / MP3 / AAC再生時



■WAV再生時

**メモ**

- 隠れている文字を表示するには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- タイトル名などが記録されていないファイルやフォルダーで表示を切り換えると、「NO FOLDER NAME」などと表示されます。
- ファイルをエンコード/ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

タイトルから曲やフォルダーを探す

圧縮オーディオの再生中に、ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをCOMPACT DISC (USBの場合はUSB) にする (→16ページ)

2 𠄎/LISTを押して、フォルダー／ファイルリストを表示する

3 ローターリーコマンダーを回して、フォルダー名やファイル名を切り換える

次のフォルダー／ファイルを選ぶ：
右に回す
前のフォルダー／ファイルを選ぶ：
左に回す

4 フォルダーの表示時に、ロータリーコマンダーを押して、そのフォルダー内のフォルダー／ファイルを表示する

メモ

- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンダーを長く押しと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

5

ファイルの表示時に、ロータリーコマンダーを押して、再生する

メモ

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、フォルダー名やファイル名を切り換えることもできます。
- 再生は、ファイルの表示時にロータリーコマンダーを右に操作することでも可能です。
- 前のリスト(1つ上の階層のフォルダー)に戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。この操作は、ロータリーコマンダーを左に操作することでも可能です。
- 最上位の階層に戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCまたは𠄎/LISTを押します。
- フォルダー／ファイルリストは、必ずROOTから表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、「NO FILES」と表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンダーを押しても再生されません。
- フォルダー／ファイルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。



ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTUNERにする(⇒16ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、ファンクションメニューを表示する

BSMが表示されます。



メモ

- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

受信状態の良い放送局を自動で探して登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。



BSMとは

BSMは、「Best Stations Memory (ベストステーションズ メモリー)」の略です。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTUNERにする(⇒16ページ)

2 BAND/ESCを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを操作して、BSMにする(⇒38ページ)

4 ロータリーコマンダーを押して、BSMによる登録を始める

登録が完了するとプリセットチャンネルリストに切り換わり、プリセットメモリーの1(PCH1)に登録された局の放送を受信します。



メモ

- 登録処理中にロータリーコマンダーを押すと、処理を途中でやめることができます。
- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。
- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行先などで、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。

放送局を 1局ずつ登録する

よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます（プリセットメモリー）。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTUNERにする（→16ページ）

2 BAND/ESCを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを左右に操作して、登録する放送局を選ぶ

4 LISTを押して、プリセットチャンネルリストを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、登録先のプリセット番号を選ぶ

プリセット番号はPCH1～PCH6の中から選べます。

6 ロータリーコマンダーを長く押し、放送局を登録する

登録処理中にプリセット番号が点滅します。

登録が完了すると、プリセット番号の点滅が終わり、その局の放送を受信します。

登録した放送局を 呼び出す

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局を、プリセットチャンネルリストの中から選んで受信できます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTUNERにする（→16ページ）

2 BAND/ESCを押して、バンドを選ぶ

3 冂/LISTを押して、プリセットチャンネルリストを表示する

4 ロータリーコマンダーを回して、放送局を切り換える

次のプリセットチャンネルを選ぶ：
右に回す
前のプリセットチャンネルを選ぶ：
左に回す

5 聞きたいプリセットチャンネルの表示中に、ロータリーコマンダーを押して、受信する

 メモ

- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCまたは冂/LISTを押します。
- プリセットチャンネルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSBにする (⇒16ページ)

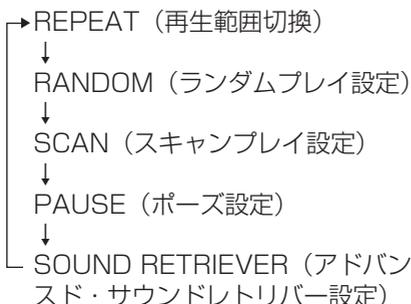
2 ロータリーコマンドを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンドを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンドを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BANDを押します (30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

ファンクションメニューの機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
	⇒29ページ 切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。
	→ALL (オールリPEAT) ↓ TRACK (トラックリPEAT) ↓ FOLDER (フォルダーリPEAT)
RPEAT	オールリPEAT： すべての曲を繰り返し再生します。 トラックリPEAT： いま聞いている曲を繰り返し再生します。 フォルダーリPEAT： いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します
RANDOM	⇒30ページ
SCAN	⇒30ページ
PAUSE	⇒31ページ
SOUND RETRIEVER	⇒32ページ

タイトルやアーティスト名を表示する

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。また、隠れている文字をスクロールすることもできます。操作方法は、CDの場合と同じです（→36ページ）。

タイトルから聞きたいフォルダーや曲を探す

ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。操作方法は、CDの場合と同じです（→37ページ）。

曲を探す

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、好みの曲を選んで再生できます。



ご注意

- iPod内のファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかることがあります。
- 本機が表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は表示されません。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSB-IPODにする (⇒16ページ)

2 𠄎/LISTを押して、ブラウズモードにする

3 ロータリーコマンドを回して選みたい項目を表示する

次の項目が表示できます。



4 ロータリーコマンドを押して、項目を選ぶ

5 手順3、4の操作を繰り返して、項目を絞り込む

6

ロータリーコマンドを回して、聞きたい曲を表示する

7

ロータリーコマンドを押して、再生する



メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、項目を切り換えることもできます。
- ロータリーコマンドを右に操作して、項目を選んだり曲を再生したりもできます。
- 前の項目(1つ上の階層)に戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。ロータリーコマンドを左に操作することでも可能です。
- 最上位の階層に戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。
- 再生したい項目を表示しているときにロータリーコマンドを長く押しすと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンドを右に長く操作することでも可能です。

リストをアルファベット順に表示する

1

ロータリーコマンドを操作して、目的の項目を表示する

2

𠄎/LISTを押して、アルファベットの入力画面を表示する

「ABC SEARCH」と表示されます。

3

ロータリーコマンドを回して、リストの先頭に表示したいアルファベットを選ぶ

4

ロータリーコマンドを押して、選んだアルファベットから始まるリストを表示する



メモ

- リストアップできないときは、「NOT FOUND」と表示されます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSB-IPODにする (⇒16ページ)

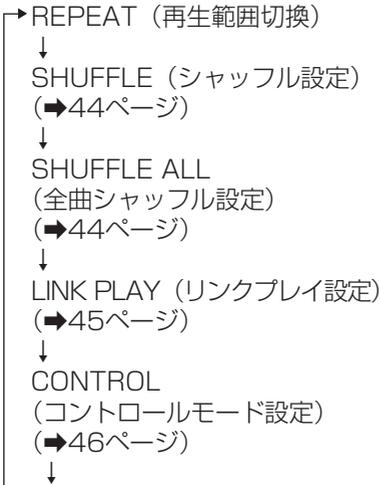
2 ロータリーコマンドーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンドーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンドーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンドーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



PAUSE (ポーズ設定)



AUDIOBOOK SPEED (オーディオブック速度設定)
(⇒47ページ)



SOUND RETRIEVER (アドバンスド・サウンドレトリバー設定)



メモ

- CONTROLをIPODに設定した場合、CONTROL、PAUSEおよびSOUND RETRIEVER以外には切り換わりません。
- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します (30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

ファンクションメニューの以下の機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
REPEAT	⇒29ページ 切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。
	↓ ONE (1曲リピート) ↓ ALL (リスト内全曲リピート)
PAUSE	⇒31ページ
SOUND RETRIEVER	⇒32ページ

違う曲順で再生する

SHUFFLE

曲やアルバムを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

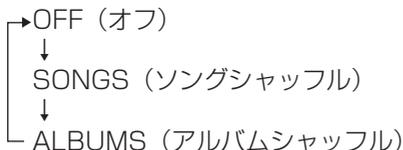
1 ロータリーコマンダーを操作して、SHUFFLEに切り換える（⇒43ページ）

2 ロータリーコマンダーを押して、SHUFFLEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンダーを回して、シャッフルの種類を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンダーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンダーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

すべての曲をシャッフルしてから再生する

SHUFFLE ALL

iPodのミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同（ランダム）に再生できます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、SHUFFLE ALLに切り換える（⇒43ページ）

2 ロータリーコマンダーを押して、全曲シャッフルする

再生が始まり、ふだんの再生画面に戻ります。



メモ

- 全曲シャッフルを解除するには、SHUFFLEでOFFを選びます（⇒44ページ）。
- 全曲シャッフルの開始は、xxx/iPodでも操作できます（⇒26ページ）。

再生中の曲にリンクした リストにショートカットする

LINK PLAY

再生中の曲にリンクしたリストを直接表示できます。表示できるのは、次のリストです。

- ・再生中のアーティストのアルバムリスト
- ・再生中のアルバムに収録されている曲のリスト
- ・再生中のジャンルのアルバムリスト

ご注意

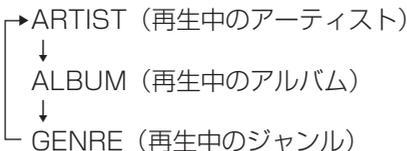
- iPod内のファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。

1 ロータリーコマンドーを操作して、LINK PLAYに切り換える (⇒43ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、LINK PLAYを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを回して、リンク元を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを押して、リンク元を選ぶ

リンク元に関連したリストが表示されます。

ARTIST：再生中のアーティストのアルバムリスト

ALBUM：再生中のアルバムに収録されている曲のリスト

GENRE：再生中のジャンルのアルバムリスト

5 ロータリーコマンドーを操作して、アルバムまたは曲を選ぶ (⇒42ページ)

ご注意

- 本機に対応していない文字がiPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- リンク元に関連したリストがない場合は、「NOT FOUND」と表示されます。

メモ

- リンクプレイ切り換えは、ふだんの再生画面で  LIST を長く押ししても、操作できます(⇒26ページ)。

iPodで選曲して 本機から再生する

CONTROL

選曲などの操作を、本機とiPodのどちらでするか切り換えられます（コントロールモード）。iPodに設定すると、iPodの見慣れた画面で操作できます。日本語のタイトルも、そのまま見て曲を選べるので便利です。



ご注意

- 以下のiPodでは本機能は使用できません。
 - ・第5世代iPod
 - ・第1世代iPod nano
- 最新の情報については、カロツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。

1

ロータリーコマンドを操作して、CONTROLを選ぶ（→43ページ）

2

ロータリーコマンドを押して、コントロールモードを切り換える

押すたびにIPODとAUDIOが切り換わります。

IPOD：iPodで選曲などの操作をします。

AUDIO：本機で選曲などの操作をします。



メモ

- AUDIOに切り換えると、ふだんの再生画面に戻ります。
- IPODに切り換えると、再生が停止されます。iPodを操作して、再生してください。

3

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



ご注意

- IPODに設定した場合は、以下の制限があります。
 - ・ファンクションメニューの機能は、CONTROL MODE、PAUSEおよびSOUND RETRIEVER以外には切り換わりません。
 - ・音量は本機からしか調節できません。
 - ・ブラウズモード（→42ページ）には切り換わりません。



メモ

- コントロールモードの切り換えは、~~xx~~iPodでも操作できます（→26ページ）。
- コントロールモードをIPODに設定していても、本機から次の操作ができます。
 - ・音量の調節
 - ・選曲
 - ・早送り／早戻し
 - ・タイトルの表示切り換え

オーディオブックの再生速度を変更する

AUDIO BOOK SPEED

オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、AUDIO BOOK SPEEDに切り換える (→ 43ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、AUDIO BOOK SPEEDを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、設定を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する

メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、ファンクションメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

タイトルやアーティスト名を表示する

iPodに記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示できます。また、隠れている文字をスクロール表示することもできます。

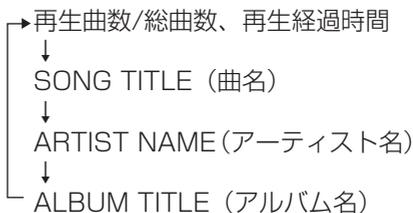
ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSB-IPODにする (→16ページ)

2 DISP/BACK/SCRLを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- 隠れている文字を表示するには、DISP/BACK/SCRLを長く押しします。
- 本機が対応していない文字がiPodに記録されている場合、その文字は表示されません。

Bluetoothアダプターの組み合わせについて

本機とBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth対応のオーディオプレーヤーを使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせたBluetoothアダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせるBluetooth対応オーディオプレーヤーによっては、操作や動作が異なる場合があります。対応機器の取扱説明書も、併せてご覧ください。

Bluetooth対応プレーヤーのふだんの操作

Bluetooth対応オーディオプレーヤーを、本機のソースとして使用できます。



ご注意

- Bluetooth対応機器を本機のBT AUDIOソースとして使用する場合、以下の設定が必要です。
 - ・ BT AUDIOソースをONにする（⇒78ページ）
 - ・ パスコードを編集する（⇒79ページ）
 - ・ Bluetooth接続する（⇒49ページ）

1

SRC/OFFを押して、ソースをBT AUDIOにする（⇒16ページ）

2

ロータリーコマンドを左右に操作して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

3

ロータリーコマンドを左右に操作し続けて、早送り／早戻しする

早送りする：右に操作し続ける

早戻しする：左に操作し続ける

4

ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにして、BT AUDIOの再生をやめる



メモ

- 組み合わせるBluetooth対応オーディオプレーヤーによっては、早送り／早戻し中に音声が出ない場合があります。

ファンクション メニューの切り換えかた

Bluetooth接続などの機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをBT AUDIOにする(⇒16ページ)

2 ロータリーコマンドを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンドを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンドを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

■ プレーヤーが接続されていないとき

→ CONNECTION OPEN (接続待ち受け)
↓
DEVICE INFO (デバイス情報)

■ プレーヤーが接続されているとき (AVRCP接続)

→ DISCONNECT AUDIO (接続解除設定)
↓
PLAY (再生)
↓
STOP (停止)
↓
PAUSE (ポーズ設定)
↓
DEVICE INFO (デバイス情報)

■ プレーヤーが接続されているとき (A2DP接続：音声再生のみ)

→ DISCONNECT AUDIO (接続解除設定)
↓
DEVICE INFO (デバイス情報)

6 選んだ機能进行操作する

機能	操作
CONNECTION OPEN	ロータリーコマンドを押すと、「ALWAYS WAITING」と表示され、Bluetooth対応オーディオプレーヤーの接続待ち受け状態になります。Bluetooth対応オーディオプレーヤーを操作して、本システムと接続します。
DISCONNECT AUDIO	ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth接続が解除されます。解除されると、「DISCONNECTED」と表示されます。
PLAY	ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth対応オーディオプレーヤーの再生が始まります。
STOP	ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth対応オーディオプレーヤーの再生が停止されます。
PAUSE	ロータリーコマンドを押すたびに、再生の開始と停止が切り換わります。
DEVICE INFO	(⇒50ページ)

メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

本システムのデバイス 情報を確認する

デバイス情報 (DEVICE INFO)

1 ロータリーコマンドーを操作して、DEVICE INFOに切り換える (⇒49ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、DEVICE INFOを選ぶ

情報の名称が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、情報の名称を切り換える

次の順序で切り換わります。

→ DEVICE NAME (デバイス名)
↓
└ BD ADDRESS (BD アドレス)

4 ロータリーコマンドーを押して、情報を表示する

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

Bluetoothアダプターの組み合わせについて

本機とBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth対応の携帯電話を使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせたBluetoothアダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせるBluetooth対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も、併せてご覧ください。

電話の待ち受けソースにする

電話の待ち受けソース（TELEPHONE）では、本システムに接続したBluetooth対応の携帯電話のさまざまな設定ができます。



ご注意

- 本機でBluetooth対応の携帯電話を使用し、ハンズフリー通話をするには、まずBluetooth接続する必要があります（→58ページ）。

1

SRC/OFFを押して、ソースをTELEPHONEにする（→16ページ）

音声操作で電話をかける

音声認識機能のある携帯電話を接続している場合、音声操作で電話をかけることができます。音声操作について詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。



ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話では、操作できません。「NO VOICE DIAL」と表示されます。
- 音声認識機能のある携帯電話でも、HFP接続できていない場合は、操作できません。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTELEPHONEにする(→16ページ)

2 BAND/ESCを長く押す

「WAIT」と表示されます。

3 「VOICE DIAL ON」と表示されたら、電話をかけたい相手の名前を発話する

発話した名前の相手に発信します。

かかってきた電話に出る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源がOFFのときでも、かかってきた電話に出ることができます。

かかってきた電話に出る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンドを押す

電話がつながり、通話できます。



メモ

- ロータリーコマンドを上に操作することでも、電話に出ることができます。

2 通話中に、ロータリーコマンドを回して、相手の声の音量(受話音量)を調節する

3 ロータリーコマンドを下に操作して、電話を切る

通話中にかかってきた別の電話に出る（割込通話）



ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできませんが、通話を個別に切ることはできません。

1

電話がかかってきたら、ロータリーコマンドーを押す

押すたびに通話の相手が切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンドーを上にも操作することでも、通話の相手が切り換えられます。

2

ロータリーコマンドーを下に操作して、電話を切る

通話中の相手だけでなく、保留にしている相手の電話も切れます。

かかってきた電話を切る（着信拒否）

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

かかってきた電話を切る

1

電話がかかってきたら、ロータリーコマンドーを下に操作する

かかってきた電話の着信を拒否します。



メモ

- 手動で着信拒否をした場合、電話番号が不在着信履歴に残ります。（→55ページ）
- すべての着信を自動で拒否することもできます（→62ページ）。この場合、電話番号は不在着信履歴には残りません。

通話中にかかってきた別の電話を切る



ご注意

- 通話中にかかってきた電話は、手動で着信拒否をした場合でも、電話番号は不在着信履歴に残りません。

1

電話がかかってきたら、ロータリーコマンドーを下に操作する

かかってきた電話の着信を拒否します。

電話番号を入力して 電話をかける

1 ロータリーコマンダーを操作して、NUMBER DIALに切り換える (⇒57ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、電話番号の入力画面を表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、入力する数字を選ぶ

次の数字を選ぶ : 右に回す
前の数字を選ぶ : 左に回す

4 ロータリーコマンダーを押して、カーソルを右に移動する



メモ

●最大で24桁入力できます。

5 ロータリーコマンダーを長く押して、入力した電話番号を確定する

電話がかかります。

通話を終了するには、ロータリーコマンダーを下に操作します。

履歴から電話をかける

不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号に電話をかけることができます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTELEPHONEにする (⇒16ページ)

2 三斜線/リストを押して、履歴の種類を選択画面に切り換える

3 ロータリーコマンダーを回して、履歴の種類を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 目的の履歴を選んで、ロータリーコマンダーを押す

履歴データが表示されます。

5 ロータリーコマンダーを回して、目的の履歴データに切り換える

次のデータを選ぶ : 右に回す
前のデータを選ぶ : 左に回す

6 目的の履歴データを選んで、ロータリーコマンダーを押す

選んだ履歴データの電話番号が表示されます。

7 ロータリーコマンドーを押し、電話をかける

選んだ履歴の電話番号に電話がかかります。

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。



メモ

- 履歴の選択画面に戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。ロータリーコマンドーを左に操作することでも可能です。
- 電話番号を表示しているときに履歴の選択画面に戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- 電話の待ち受け画面に戻るには、BAND/ESCまたは返/LISTを押します。
- 履歴の表示は、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューの切り換えかた

Bluetooth接続などの機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFを押して、ソースをTELEPHONEにする (→16ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、メインメニューを表示する

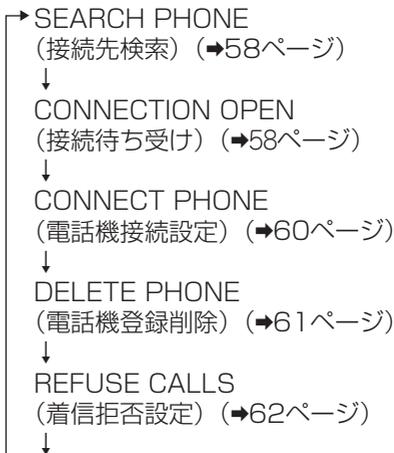
3 ロータリーコマンドーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンドーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンドーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。

■携帯電話が接続されていないとき



AUTO ANSWER
(自動着信設定) (➡62ページ)



RING TONE
(着信音設定) (➡63ページ)



AUTO CONNECT
(自動接続設定) (➡60ページ)



ECHO CANCEL
(エコーキャンセル設定)
(➡63ページ)



DEVICE INFO
(デバイス情報) (➡50ページ)

■携帯電話が接続されているとき

→ DISCONNECT PHONE
(接続解除設定) (➡59ページ)



SET PHONE * 1
(電話機登録設定) (➡59ページ)



DELETE PHONE
(電話機登録削除) (➡61ページ)



CLEAR MEMORY * 2 (ユーザー
メモリー消去) (➡61ページ)



NUMBER DIAL
(番号入力発信) (➡55ページ)



REFUSE CALLS
(着信拒否設定) (➡62ページ)



AUTO ANSWER
(自動着信設定) (➡62ページ)



RING TONE
(着信音設定) (➡63ページ)



AUTO CONNECT
(自動接続設定) (➡60ページ)



ECHO CANCEL (エコーキャン
セル設定) (➡63ページ)



DEVICE INFO
(デバイス情報) (➡50ページ)



メモ

- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
 - メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
 - 電話の待ち受け画面に戻るには、BAND/ESCを押します。
 - 30秒間何も操作しないと、自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。
 - ・SEARCH PHONE
 - ・CONNECTION OPEN
 - ・CONNECT PHONE
 - ・DISCONNECT PHONE
 - ・CLEAR MEMORY
 - ・NUMBER DIAL
- *1 接続中の電話機が登録されているときは、SET PHONEには切り換わりません。
- *2 接続中の電話機が登録されていないときは、CLEAR MEMORYには切り換わりません。
- DEVICE INFOの操作方法は、BT AUDIOの場合と同じです (➡50ページ)。

携帯電話を接続する

SEARCH PHONE / CONNECTION OPEN

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 ロータリーコマンドerを操作して、SEARCH PHONEに切り換える (→56ページ)

2 ロータリーコマンドerを押して、接続可能な携帯電話を検索する

接続可能な携帯電話が見つかったら、デバイス名（機器名称）が表示されます。



メモ

- ロータリーコマンドerを長く押すと、携帯電話のデバイス名（機器名称）とBDアドレスを切り換えることができます。

3 接続可能な携帯電話が複数台見つかった場合は、ロータリーコマンドerを回して、接続する携帯電話を選ぶ

4 ロータリーコマンドerを押して、携帯電話をBluetooth接続する

接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名（Pioneer BT unit）を確認し、パスコードを入力します。接続が完了すると、本機に「CONNECTED」と表示されます。

5 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る



メモ

- 接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「NOT FOUND」と表示されます。

- 携帯電話のデバイス名が取得できなかった場合は、「NAME NOT FOUND」と表示されます。

- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます (→79ページ)。

携帯電話から接続する



ご注意

- 携帯電話によって操作が異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話によっては、パスコードの入力が必要になる場合があります。パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます (→79ページ)。

1 ロータリーコマンドerを操作して、CONNECTION OPENに切り換える (→56ページ)

2 ロータリーコマンドerを押して、携帯電話からの接続待ち受け状態にする

携帯電話からの接続を待っている間、「ALWAYS WAITING」と表示されます。

3 携帯電話を操作して、本システムとBluetooth接続する

携帯電話がBluetooth接続されます。

接続が完了すると、「CONNECTED」と表示されます。

4 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

Bluetooth接続を解除する

DISCONNECT PHONE

1 ロータリーコマンドーを操作して、DISCONNECT PHONEに切り換える(→57ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、本システムとのBluetooth接続を解除する

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

携帯電話を登録する

SET PHONE

1 ロータリーコマンドーを操作して、SET PHONEに切り換える(→57ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、登録画面を表示する

3 ロータリーコマンドーを回して、登録先を選ぶ

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト1)、G2 (ゲスト2) の中から選べます。

4 ロータリーコマンドーを押して、携帯電話を登録します。

登録が完了すると、「REG COMPLETED」と表示されます。



ご注意

- すでに登録されている携帯電話は、別の設定に登録できません。



メモ

- ロータリーコマンドーを長く押しすと、選択した携帯電話のデバイス名(機器名称)とBDアドレスを切り換えることができます。

5 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る



ご注意

- ゲストとして登録された携帯電話では、一部操作できない機能があります。

登録されている 携帯電話を接続する

CONNECT PHONE / AUTO CONNECT

手動で接続する

1 ロータリーコマンダーを操作して、CONNECT PHONEに切り換える(⇒56ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、選択画面を表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、接続したい携帯電話を選ぶ

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト1)、G2 (ゲスト2)の中から選べます。



メモ

- ロータリーコマンダーを長く押すと、選択した携帯電話のデバイス名(機器名称)とBDアドレスを切り換えることができます。

4 ロータリーコマンダーを押して、選んだ携帯電話をBluetooth接続する

接続が完了すると、「CONNECTED」と表示されます。

5 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

自動で接続する

1 ロータリーコマンダーを操作して、AUTO CONNECTに切り換える(⇒57ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、自動接続設定をONにする

本システムに登録されている携帯電話と、自動的にBluetooth接続を開始する待機状態になります。

もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る



メモ

- 登録されている携帯電話でも、機種によっては自動で接続できない場合があります。この場合は、手動で接続してください。

携帯電話の登録を削除する

DELET PHONE

1 ロータリーコマンダーを操作して、DELET PHONEに切り換える (⇒56ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、選択画面を表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、携帯電話を切り換える

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト1)、G2 (ゲスト2) の中から選べます。



メモ

● ロータリーコマンダーを長く押すと、携帯電話のデバイス名 (機器名称) とBDアドレスを切り換えることができます。

4 登録を削除したい携帯電話を選んで、ロータリーコマンダーを押す

確認画面「DELETE OK?」が表示されます。

5 ロータリーコマンダーを回してYESを選ぶ

6 ロータリーコマンダーを押す

選んだ携帯電話の登録が削除されます。削除が完了すると、「DELETED」と表示されます。

7 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

データを消去する

CLEAR MEMORY

1 ロータリーコマンダーを操作してCLEAR MEMORYに切り換える (⇒57ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、選択画面を表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、履歴の種類を切り換える

次の順序で切り換わります。

→ ALL (すべて)
↓
RECEIVED (着信履歴)
↓
DIALED (発信履歴)
↓
MISSED (不在着信履歴)



メモ

● ALLを選ぶと、着信履歴、発信履歴、不在着信履歴、の全データを消去できます。

4 消去したい履歴の種類を選んで、ロータリーコマンダーを押す

確認画面「CLEAR MEMORY」が表示されます

5 ロータリーコマンダーを回してYESを選ぶ

6 ロータリーコマンダーを押す

選んだ履歴が消去されます。消去が完了すると、「CLEARED」と表示されます。

7 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

着信拒否を設定する

REFUSE CALLS

1 ロータリーコマンドーを操作して、REFUSE CALLSにする (→56ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、着信拒否設定をONにする
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る



メモ

- 着信拒否設定と自動着信設定が両方ともONのときは、着信拒否設定が優先されます。

自動着信を設定する

AUTO ANSWER

1 ロータリーコマンドーを操作して、AUTO ANSWERに切り換える (→57ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、自動着信設定をONにする
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る



メモ

- 着信拒否設定と自動着信設定が両方ともONのときは、着信拒否設定が優先されます。

着信音の設定を ON / OFFする

RING TONE

1 ロータリーコマンダーを操作して、RING TONEに切り換える (→57ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、着信音の設定をONにする
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

通話中のノイズや エコーを軽減する

ECHO CANCEL

1 ロータリーコマンダーを操作して、ECHO CANCELに切り換える (→57ページ)

2 ロータリーコマンダーを押して、エコーキャンセルをONにする
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、電話の待ち受け画面に戻る

オーディオ調節 メニューの切り換えかた

「音量バランス調節」「EQプリセット設定」「ラウドネス設定」などのオーディオ機能は、オーディオ調節メニューで選んで操作します。

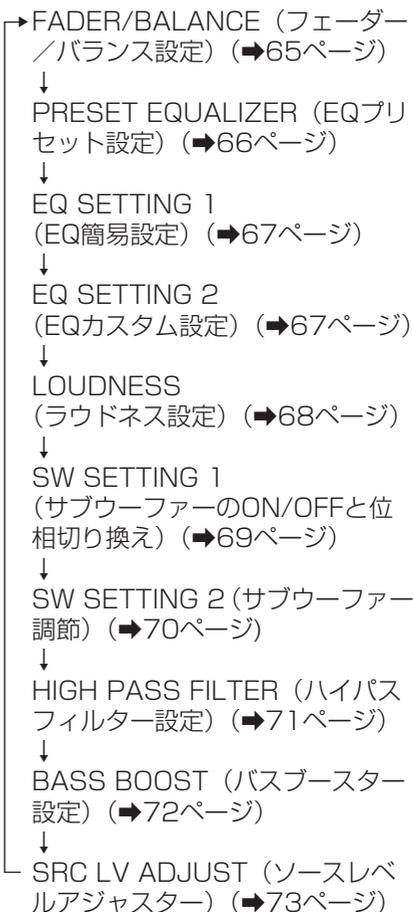
1 ロータリーコマンドを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンドを回して、AUDIOを選ぶ

3 ロータリーコマンドを押して、オーディオ調節メニューを表示する

4 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で機能が切り換わります。



メモ

- オーディオ調節メニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります)。
- リアスピーカー出力端子／RCA出力端子の設定(⇒77ページ)でPREOUT:REARを選んでいるときは、SW SETTING 1には切り換わりません。
- SW SETTING 2は、SW SETTING 1がONのときだけ選べます。
- ラジオのFMを聞いているときは、SRC LV ADJUSTには切り換わりません。
- TELEPHONEソースまたは交通情報(⇒83ページ)の受信中は、FADER/BALANCE以外には切り換わりません。

前後左右の 音量バランスを調節する

FADER / BALANCE

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

ご注意

- リアスピーカー出力端子 / RCA出力端子の設定 (➡77ページ) を REAR SP : SUB Wにしたときは、FADER (フェーダー) は調節できません。

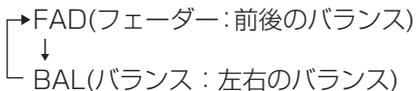
1 ロータリーコマンドーを操作して、FADER/BALANCEに切り換える (➡64ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、FADER/BALANCEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを押して、設定内容を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを回して、音量バランスを調節する

■ 前後を調節するとき

前を強める :

手順の3で FAD を選び、右に回す
後ろを強める :

手順の3で FAD を選び、左に回す

前後のバランスは、F15 ~ R15の範囲で調節できます。

■ 左右を調節するとき

右を強める :

手順の3で BAL を選び、右に回す
左を強める :

手順の3で BAL を選び、左に回す

左右のバランスは、L15 ~ R15の範囲で調節できます。

メモ

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、前後左右のバランスを調節することもできます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

イコライザーカーブを選択する

PRESET EQUALIZER

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、好みの音質にできます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、PRESET EQUALIZERに切り換える (→64ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、PRESET EQUALIZERを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、イコライザーカーブを切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、イコライザーカーブを切り換えることもできます。

4

ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る



メモ

- CUSTOMは、好みに合わせて調節した値が登録されます (→67ページ)。
- FLATは、イコライザーによる音の補正がされていません。

イコライザーカーブを 大まかに補正する

EQ SETTING 1

イコライザーカーブの簡単な補正ができます。



メモ

●調節した内容はCUSTOMに登録されます(→66ページ)。

1 ロータリーコマンドーを操作して、EQ SETTING 1に切り換える(→64ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、EQ SETTING 1を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを押して、設定する音域を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする: 右に回す
レベルを小さくする: 左に回す

レベルは、-6 ~ +6の範囲で調節できます。



メモ

●ロータリーコマンドーを上下に操作して、レベルを調整することもできます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

イコライザーカーブを 細かく調節する

EQ SETTING 2

イコライザーカーブを、好みに合わせて詳細に設定できます。



メモ

●調節した内容はCUSTOMに登録されます(→66ページ)。

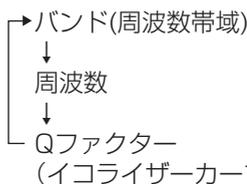
1 ロータリーコマンドーを操作して、EQ SETTING 2に切り換える(→64ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、EQ SETTING 2を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを押して、設定する項目を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドーを回して、それぞれの項目の設定を選ぶ

手順の3で切り換えた項目(バンド、周波数、Qファクター)の設定が選べます。

■バンド

次の順序で切り換わります。



■周波数

音の中心になる周波数を選びます。

高い周波数を選ぶ： 右に回す

低い周波数を選ぶ： 左に回す

選べる周波数 (Hz) は、バンドによって異なります。

バンドがLOW： 40 80 100 160

バンドがMID： 200 500 1K 2K

バンドがHI： 3K 8K 10K 12K

■Qファクター

選んだバンドのQファクターを選びます。

傾きを大きくする： 右に回す

傾きを小さくする： 左に回す

Qファクターは、2N、1N、1W、2Wの中から選べます。



Qファクターの傾き

Qファクターの傾きは2Nが最も急で、1N、1W、2Wの順に緩やかになります。



メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、各項目を設定することもできます。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

小さな音量でも聞きやすくする

LOUDNESS

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じる場合があります。ラウドネスは、この不足感を補って、音を聞きやすくします。

1

ロータリーコマンドを操作して、LOUDNESSに切り換える (→64ページ)

2

ロータリーコマンドを押して、LOUDNESSを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3

ロータリーコマンドを回して、ラウドネスの効果を切り換える。

次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、ラウドネスの効果を選ぶこともできます。

4

ロータリーコマンドを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

サブウーファーを使う

サブウーファーを使用する場合は、サブウーファーの設定をONにする必要があります。

本機では、リアスピーカー端子または、RCA出力端子に接続したサブウーファーを調節できます。

サブウーファーの調節は、次の2ステップで行います。

- ①サブウーファーのON / OFFと位相切り換え
- ②サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

「サブウーファーの設定について」(→14ページ)を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。



ご注意

- リアスピーカー出力端子 / RCA 出力端子の設定(→77ページ)でPREOUT :REARに設定したときは、サブウーファーの調節はできません。
- サブウーファーのON / OFFと位相切り換え(→69ページ)で、サブウーファーをOFFにした場合は、サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節(→70ページ)は操作できません。

サブウーファーのON / OFFと位相切り換え

SW SETTING 1

サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えます。位相を選ぶと、サブウーファーがONになります。



位相切り換え

サブウーファーから出力される音の中には、フロント / リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転(干渉)し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。

- ・正相: サブウーファーの音が、フロント / リアスピーカーと同時に出力される
- ・逆相: サブウーファーの音が、フロント / リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1

ロータリーコマンダーを操作して、SW SETTING 1に切り換える(→64ページ)

2

ロータリーコマンダーを押して、SW SETTING 1を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3

ロータリーコマンダーを回して、サブウーファーの設定を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、サブウーファーの設定を切り換えることもできます。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されず。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節

SW SETTING 2

サブウーファーから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数

選んだ周波数よりも上の周波数（または下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファースのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

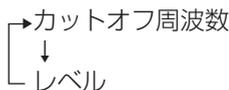
1 ロータリーコマンドーを操作して、SW SETTING 2に切り換える（⇒64ページ）

2 ロータリーコマンドーを押して、SW SETTING 2を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを押して、設定する項目を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンドを回して、それぞれの項目を設定する

■ カットオフ周波数

高い周波数を選ぶ：右に回す

低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選べます。

■ レベルの調節

レベルを大きくする：右に回す

レベルを小さくする：左に回す

レベルは、-24 ~ +6の範囲で調節できます。



メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、各項目を設定することもできます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

低い音を出力しない

HIGH PASS FILTER

選んだ周波数よりも高い音だけを、フロントスピーカーとリアスピーカーから出力します。フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力し、サブウーファーからは低音だけを出力することで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。



ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数 (カットオフ周波数 → 70ページ) から下の音域 (低音域) をカットして、高音域を通すフィルターです。

1 ロータリーコマンドを操作して、HIGH PASS FILTERに切り換える (→64ページ)

2 ロータリーコマンドを押して、HIGH PASS FILTERを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドを回して、カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶ：右に回す

低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、OFF、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選べます。



メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、周波数を切り換えることもできます。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

低い音を強調する

BASS BOOST

低音域を強調することができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BASS BOOSTに切り換える (→64ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、BASS BOOSTを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す
レベルは0～+6の範囲で設定できます。



メモ

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、レベルを調節することもできます。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

各ソースの音量を そろえる

SRC LV ADJUST

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。ソースレベルアジャスターを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。



ご注意

- FMを聞いているときは、SRC LV ADJUSTには切り換わりません。

1

ロータリーコマンドーを操作して、SRC LV ADJUSTに切り換える (→64ページ)

2

ロータリーコマンドーを押して、SRC LV ADJUSTを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3

ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す

レベルを小さくする：左に回す

レベルは-4 ~ +4の範囲で設定できます。



メモ

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、レベルを調節することもできます。

4

ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5

BAND/ESCを押して、ふだんの再生画面に戻る

初期設定 メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能は、初期設定メニューで選んで操作します。初期設定メニューは、電源をOFFにした状態で操作します。

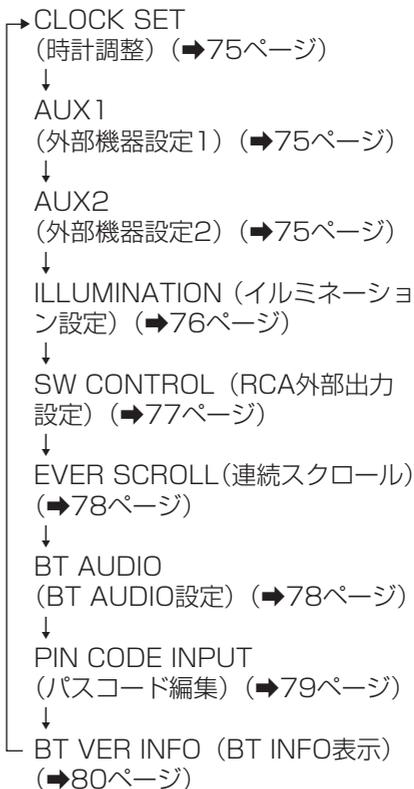
1 SRC/OFFを長く押して、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンドを長く押して、初期設定メニューに切り換える

初期設定メニューに切り換わると、「CLOCK SET」と表示されます。

3 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- BT AUDIO、PIN CODE INPUTおよびBT VER INFOは、別売のBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、機能を切り換えることもできます。
- 初期設定メニューを解除するときは、BANDを押します（初期設定メニューを解除すると、電源がOFFになります）。

時計を合わせる

CLOCK SET

1 ロータリーコマンドーを操作して、CLOCK SETにする(→74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、COLOCK SETを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。



メモ

- 初期設定メニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。

3 ロータリーコマンドーを押して、時と分を切り換える

4 ロータリーコマンドーを回して、時刻を合わせる

時刻を進める：右に回す

時刻を戻す：左に回す

分を調整すると、0秒からカウントが始まります。

5 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

外部機器 (AUX) の 音声を聞けるようにする

AUX1 / AUX2

本機にポータブルオーディオプレーヤーやVTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

外部機器の接続には、次の3通りがあります。

①市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)

本体前面のAUX入力端子 (3.5 mm) に接続します (→9ページ)。この場合、接続した外部機器は、AUX1ソースとして認識されます。

②別売のRCA / IP-BUSインターコネクターを使用する場合 (AUX2)

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA / IP-BUSインターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。

接続した外部機器は、AUX2ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

③IP-BUSを使用する場合 (AUX2) (パイオニア製ナビゲーションユニットのように、IP-BUS出力を持つパイオニア製品を接続する場合)

別売のIP-BUSケーブル (例：「CD-IP600」) を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続したナビゲーションユニットはAUX2ソースとして認識され、音声のみが出力されます。



ご注意

- AUX2は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。両方の方法で、同時に接続することはできません。

1 ロータリーコマンドーを操作して、AUX1またはAUX2に切り換える (⇒74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、外部機器設定をONにする
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する
電源がOFFになります。



メモ

- AUX1は、初期状態でONになっています。AUX1を使用しない場合は、OFFにします。
- シガーライターからポータブルプレーヤーの充電を行いながらAUX入力で音楽を聞くと、ノイズが出る場合があります。その場合は、シガーライターからの充電をやめください。

ボタンのイルミネーションの色を切り換える

ILLUMINATION

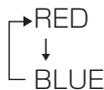
ボタンのイルミネーションの色を、青と赤から選ぶことができます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、ILLUMINATIONに切り換える (⇒74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、ILLUMINATIONを選ぶ
現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、イルミネーションの色を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、イルミネーションの色を切り換えることもできます。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する



メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、初期設定メニューに戻ったり、初期設定メニューを解除したりしても、設定は決定されます。

5 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

リアスピーカー出力端子／ RCA出力端子の設定をする

SW CONTROL

リアスピーカー出力端子は、フルレンジスピーカーのほかサブウーファーを接続できます。この場合、外部アンプは不要です。またRCA出力端子は、外部アンプを接続して、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、SW CONTROLに切り換える (⇒74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、SW CONTROLを選ぶ

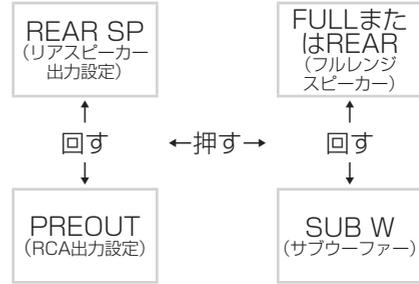
現在の設定内容が表示されます。



メモ

- 初期設定メニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。

3 ロータリーコマンドーを操作して、設定を切り換える



接続のしかたに合わせて、次のとおり設定してください。

接続のしかた	設 定
リアスピーカー出力端子にフルレンジスピーカーを接続	REAR SP :FULL
リアスピーカー出力端子にサブウーファーを接続	REAR SP :SUB W
RCA出力端子にサブウーファーを接続	PREOUT :SUB W
RCA出力端子にフルレンジスピーカーを接続	PREOUT :REAR



REAR SP :SUB Wに設定した場合の ご注意

- リアスピーカー出力端子の設定をサブウーファー用にした場合(REAR SP :SUB W)、RCA出力端子の設定 (PREOUT) はできません。

4 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

スクロールの設定を切り換える

EVER SCROLL

連続スクロール設定をONにすると、タイトルなどが連続してスクロールするようになります。スクロールを一度だけにしたいときは、この機能をOFFにします。

1 ロータリーコマンドーを操作して、EVER SCROLLに切り換える (⇒74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、連続スクロールをONにする

もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

BluetoothオーディオのソースをONにする

BT AUDIO

Bluetooth対応のオーディオプレーヤーを接続する場合、BT AUDIOソースの設定をONにします。



ご注意

- この機能は、別売のBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。
- 初期状態では、ONになっています。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BT AUDIOに切り換える (⇒74ページ)

2 ロータリーコマンドーを押して、BT AUDIOをONにする

もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

Bluetoothの パスコードを変更する

PIN CODE INPUT

Bluetooth接続時に使用する暗証番号(パスコード)を変更できます。初期状態では、「0000」になっています。

ご注意

- この機能は、別売のBluetoothアダプター(例:「CD-BTB10」)を接続しているときだけ操作できます。
- 空白は、無効な文字です。入力した場合、以下の制限があります。
 - ・途中に空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスコードが確定されます。
 - ・先頭に空白を入力した場合、パスコードは確定されません。もう一度、パスコードを編集してください。

1 ロータリーコマンドを操作して、PIN CODE INPUTに切り換える(→74ページ)

2 ロータリーコマンドを押して、PIN CODE INPUTを選ぶ

入力画面が表示されます。

メモ

- 初期設定メニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。

3 ロータリーコマンドを回して、入力する数字を選ぶ

次の数字を選ぶ： 右に回す
前の数字を選ぶ： 左に回す

4 ロータリーコマンドを押して、カーソルを右に移動する

5 ロータリーコマンドを長く押し、入力を確定する

確定した数字が表示されます。

メモ

- 空白を残したままでも、ロータリーコマンドを長く押しして入力を確定できます。
- パスコード入力中(数字が点滅しているとき)にDISP/BACK/SCRLを押すと、入力画面が解除されて、初期設定メニューに戻ります。

6 BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

Bluetoothのバージョンを表示する

BT VER INFO

本機のBluetoothのバージョン情報を表示できます。



ご注意

- この機能は、別売のBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。

1

ロータリーコマンドーを操作して、BT VER INFOに切り換える（⇒74ページ）

2

ロータリーコマンドーを押して、BT VER INFOを選ぶ

システムのマイコンのバージョン(Sで始まる文字列)が表示されます。



メモ

- 初期設定メニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。

3

ロータリーコマンドーを回して、表示を切り換える。

次の順序で切り換わります。

→ システムマイコンのバージョン (Sで始まる文字列)



← Bluetoothデバイスモジュールのバージョン (Bで始まる文字列)

4

BAND/ESCを押して、初期設定メニューを解除する

電源がOFFになります。

ミュート機能について

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取っているときに、ミュート機能が働きます。

エクスターナルユニットを使う



エクスターナル

本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品(将来発売されるバイオニア製品など)を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2台のエクスターナル製品を接続できます。この場合、エクスターナル1とエクスターナル2が自動で設定されます。



ご注意

- ここでは、エクスターナルユニットの基本的な操作方法だけを説明しています。機能は、接続するエクスターナルユニットによって異なります。機能について詳しくは、エクスターナルユニットの取扱説明書をご覧ください。

ソースとして エクスターナルユニットを選ぶ

1

SRC/OFFを押して、ソースをEXTERNALに切り換える(⇒16ページ)

ふだんの操作

BAND/ESCを押す

BAND/ESCを長く押す

ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に長く操作して、離す

ロータリーコマンドを上下に操作する

1～6キーに 割り当てられた機能を使う

1 /LISTを押す

2 ロータリーコマンドを回して1 KEY～6 KEYを選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューの 切り換えかた

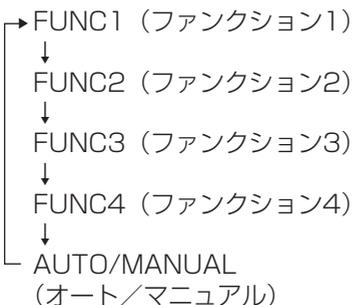
1 ロータリーコマンドを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンドを回して、FUNCTIONを選ぶ

3 ロータリーコマンドを押して、ファンクションメニューを表示する

4 ロータリーコマンドを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- S.Rtrvを押すことでも、FUNC1 をON / OFFすることができます。
- xx/iPodを押すことでも、FUNC2をON / OFFすることができます。
- ⇨を押すことでも、FUNC3をON / OFFすることができます。
- ファンクションメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを押します。
- メインメニューに戻るには、DISP/BACK/SCRLを長く押します。
- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します。

交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源OFFのときでも、どのソースからでも操作できます。

1 TI/CLOCKを押して、交通情報を受信する

もう一度押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ロータリーコマンドを左右に操作して、交通情報の周波数を切り換える

1 629 kHzを選ぶ：右に操作する

1 620 kHzを選ぶ：左に操作する

メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

時計を表示する

本機のディスプレイに時計を表示できません。時計は、本機の電源がONまたはOFFのどちらの場合でも表示できます。



メモ

- 時計を合わせるには、➔75ページ。

1 TI/CLOCKを長く押し、時計を表示する

もう一度長く押しと、時計表示が解除されます。



メモ

- 本機の電源がONのときの時計表示は、ほかの操作をするといったん解除されます。この場合、25秒後に再び表示されます。

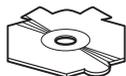
CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-RやCD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください）。

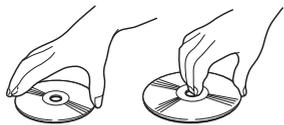
- 直射日光や高温など車内での保管状況により、CD-RやCD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。
- CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷が付く場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合が出る場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



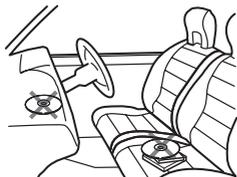
- CDにキズを付けしないでください。
- CDにシールなどを張らないでください。



- 本機の機構または使用環境、ディスクの取り扱いなどにより、実際の使用で支障のない程度のキズがディスク面に付くことがあります。これは、一般的な消耗としてご理解ください。

保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナーや静電気防止剤などは使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

- 走行中に、振動のショックで音飛びを起こす場合があります。
- 寒いときヒーターを入れた直後にCDの再生を始めると、本機内部のレンズやCDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

WMA / MP3 / AAC / WAVファイルについて

WMAとは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。



ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できるWMAファイルについて



ご注意

- WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wma)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wma)が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WMAファイル以外には拡張子(.wma)を付けしないでください。
- 再生できるWMAファイルのサンプリング周波数は32 kHz～48 kHzです。
- WMAファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR(固定ビットレート)で48 kbps～320 kbps、VBR(可変ビットレート)で48 kbps～384 kbpsのWMAファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをお勧めします。
- デジタル著作権保護(DRM)で保護されたファイルは、再生がスキップされます。「TRK

SKIPPED」と表示されます。

- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護(DRM)で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - ・ Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - ・ Windows Media Audio 9 Lossless(可逆圧縮)
 - ・ Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるMP3ファイルについて



ご注意

- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けしないでください。
- ID3 Tagのバージョン1.0/1.1/2.2/2.3/2.4のアルバム名/曲名/アーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 Tagのバージョン1.Xと2.Xが混在している場合は、2.Xが優先されます。
- サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生している場合のみ、エンファシスに対応しています。再生可能なサンプリング周波数は16 kHz～48 kHzです。
- MP3ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps～320 kbpsのMP3ファイルの再生に対応しています。また、本機はVBR(可変ビットレート)で記録された

ディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps以上のビットレートで記録することをお勧めします。

AACとは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるAACファイルについて

ご注意

- AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。
- 本機は、iTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けしないでください。
- 本機で画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz～48 kHzです。
- AACファイルは一般的に、ステレオビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、16 kbps～320 kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いステレオビットレートで記録することをお勧めします。VBR(可変ビットレート)で記録されたAACファイルは再生できません。

- iTunes Storeで購入された楽曲(.m4p)は、CD-R / CD-RWまたはUSB機器に記録しても再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。
・ Apple ロスレス・エンコーダ

WAVとは？

- 「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

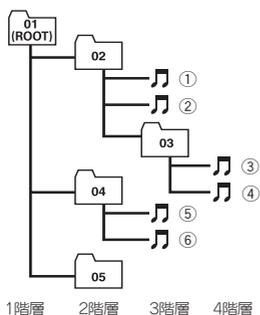
再生できるWAVファイルについて

ご注意

- WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けしないでください。
- 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM形式では16 kHz～48 kHz、MS ADPCM形式では22.05 kHz～44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではない場合があります。
- WAVファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM形式で8 bitまたは16 bit、MS ADPCM形式で4 bitの量子化ビット数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをお勧めします。

ディスク内の フォルダーについて

- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを取録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1/レベル2/拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3uのプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて32文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は32文字です。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間(トラック間)に空白がな

いCDを、WMA/MP3/AAC/WAVファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R/CD-RW/CD-EXTRA/MIXED-MODE CDディスクにWMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できません (→19ページ)。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8階層までのWMA/MP3/AAC/WAVファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- フォルダーの合計が99個までのディスクを再生できます。

USB機器について

- USBポータブルオーディオプレーヤーやUSB Mass Storage Class対応のUSBメモリーに収録されたWMA / MP3 / AAC / WAVファイルを再生できます。

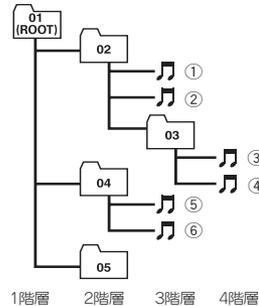


ご注意

- USB機器を本機に接続する際は、別売のUSBケーブル (CD-U51E) を使用してください。USBケーブルを使わずに直接接続すると、USB機器が突起物となり危険です。指定のUSBケーブル以外は、使用しないでください。
- USBハブを使用しての接続には対応していません。
- 接続するUSB機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- パーティションを作ったUSBメモリーは使用できません。
- 使用するUSB機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB機器は必ず固定してください。USB機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USBメモリーまたはUSBオーディオプレーヤー以外 (USB接続の扇風機など) は、接続しないでください。
- USB機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。

USB機器内のフォルダーについて

- USBメモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USBポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01～05はフォルダー番号の割り当て、①～⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USBメモリーにコピーされた順番と同じです。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 - ① パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 - ② それらのファイルをフォルダーに入れる。
 - ③ フォルダー単位でUSBメモリーにコピーする。ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。
- 再生できるファイルの合計は、最大15 000ファイルです。

- 再生できるフォルダーの合計は、最大500フォルダーです。
- 8階層までのWMA / MP3 / AAC / WAVファイルの再生に対応しています。
- USB機器のフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて32文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は32文字です。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- m3uのプレイリストには対応していません。

iPodについて

本機が対応するiPod

- 本機は以下のiPodに対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。
 - ・第5世代iPod : Ver. 1.3.0
 - ・第1世代iPod nano : Ver. 1.3.1
 - ・第2世代iPod nano : Ver. 1.1.3
 - ・第3世代iPod nano : Ver. 1.1.2
 - ・iPod classic : Ver. 1.1.2
 - ・iPod touch : Ver. 2.0
 - ・iPhone 3G : Ver. 2.0
- 最新の情報についてはカロツツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- 操作方法は、iPod ソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
- iPod を接続するには、iPod用USB変換ケーブル（例：CD-IU50）が必要です。



ご注意

- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPodを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPodは必ず固定してください。iPodが落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPodの取り扱いについて詳しくは、iPodの説明書をお読みください。

iPodの設定について

- 音質効果を最適にするために、iPodが接続されると、本機はiPodのEQの設定を自動的に「FLAT」に変更します。取り外すと、設定

は自動的に元に戻ります。

- iPodを本機に接続している場合、iPodのリピートは「オフ」に設定できません。また、iPodのリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」(⇒97ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください(⇒取付説明書)。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたのと同じ容量のヒューズと交換してください(⇒取付説明書)。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください(⇒17ページ)。
	音声がミュートされている。	ミュートを解除してください(⇒26ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(⇒65ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(⇒65ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください(⇒65ページ)。

CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CDの再生中に、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。 CDを再生できない。	CDに大きなキズやそりがある。	ほかのCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください(⇒87ページ)。
	CDが曇っている。 CDに水滴が付いている。	CDの曇りや水滴をふき取ってください(⇒87ページ)。
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください(⇒18ページ)。
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	▲を長く押し、ディスクが取り出せません。もう一度、入れ直してください。

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください(⇒20ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください(⇒20ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください(⇒20ページ)。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA/MP3/AAC/WAVのエラー表示

CDやWMA/MP3/AAC/WAVを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください(➡87ページ)。
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R/CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-22」 「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CD-ROMを交換してください。
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-50」 「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CDの再生を一度やめてから、もう一度再生してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されているCD-ROMと交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	ディスクを交換してください。



ご注意

- マルチCDの再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

USBのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USBコネクタまたはUSBケーブルがショートした。	USBコネクタ/USBケーブルが何かに挟まっていないか、破損していないか確認してください。
	規定 (➡100ページ) 以上の電流を消費するUSB機器を接続した。	接続したUSB機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてから、ONにしてください。次に、対応するUSB機器を接続してください。
「N/A USB」	接続したUSB機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class対応のUSB機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていないUSB機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存されたUSB機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きのUSBメモリーを接続した。	USBメモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。

前ページからの続き

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「PROTECT」	USB機器内のすべてのWMAファイルがWindows Media DRM 9 / 10で保護されている。	Windows Media DRM 9 / 10で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存したUSB機器を接続してください。
「SKIPPED」	Windows Media DRM 9 / 10で保護されたWMAファイルを再生した。	Windows Media DRM 9 / 10で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースをUSBに切り換えてください。 <ul style="list-style-type: none"> 車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONする。 接続したUSB機器を一度外してから接続する。 別のソースに切り換える。
「ERROR-23」	接続されたUSB機器のフォーマットが、FAT32またはFAT16ではない。	フォーマットが、FAT32またはFAT16のUSB機器を接続してください。
「NO DEVICE」	USB機器またはiPodが接続されていない。	対応するUSB機器を接続してください。

iPodのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」 「ERROR-A1」	iPodは動作するが、充電されない。	iPodケーブルがショートしていないか (例えば、金属物に挟まれているか) 確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、iPodを一度脱着してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	コネクタを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
	iPodに問題が発生した。	
「N/A USB」	iPodソフトウェアのバージョンが古い。	iPodソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。
	iPodに問題が発生した。	iPodをリセットしてください。
「ERROR-16」	iPodソフトウェアのバージョンが古い。	iPodソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。
	iPodに問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
「NO SONGS」	iPodに曲が入っていない。	iPodに曲を転送してください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。
「NO DEVICE」	USB機器またはiPodが接続されていない。	対応するiPodを接続してください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標・著作権など

iPod



iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

iPhone

iPhoneは、Apple Inc.の商標です。

WMA



Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国Microsoft Corporationが所有する技術を使用しています。また、米国Microsoft Licensing Inc.の許可を得ずに使用または頒布できません。

MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

iTunes

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

おもな仕様

共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10.0 A
外形寸法：	(取り付け寸法 (D))：178 (W) mm × 50 (H) mm × 162 (D) mm (ノーズ寸法)：170 (W) mm × 46 (H) mm × 24 (D) mm
質量：	1.3 kg (コード含まず)

アンプ／オーディオ部

最大出力：	50 W×4
定格出力：	22 W×4 (50 Hz ~ 15 000 Hz、5 % THD)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)
プリアウト：	最大出力レベル：2.2 V 出カインピーダンス：1 kΩ

イコライザー

(3バンドパラメトリックイコライザー)：

(LOW)：	周波数：40 / 80 / 100 / 160 Hz Qファクター：0.35 / 0.59 / 0.95 / 1.15 (+6 dBブースト時) 調整幅：±12 dB
(MID)：	周波数：200 / 500 / 1K / 2K Hz Qファクター：0.35 / 0.59 / 0.95 / 1.15 (+6 dBブースト時) 調整幅：±12 dB
(HIGH)：	周波数：3.15K / 8K / 10K / 12.5K Hz Qファクター：0.35 / 0.59 / 0.95 / 1.15 (+6 dBブースト時) 調整幅：±12 dB

ラウドネスコンター：

(LOW)：	3.5 dB (100 Hz) 3 dB (10 kHz)
(MID)：	10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz)
(HIGH)：	11 dB (100 Hz) 11 dB (10 kHz)
	(ボリューム：-30 dB)

ハイパスフィルター：

周波数：	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ：	-12 dB/oct

サブウーファー出力：

周波数：	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ：	-18 dB/oct
調整幅：	+6 dB ~ -24 dB
位相：	NORMAL / REVERSE

バスブースター：

調整幅：	+12 dB ~ 0 dB
------	---------------

CDプレーヤー部

形式：	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク：	コンパクトディスク
信号フォーマット：	サンプリング周波数：44.1 kHz 量子化ビット数：16 ビット直線
周波数特性：	5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	94 dB (1 kHz) (IHF-Aネットワーク)
ダイナミックレンジ：	92 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)
WMAデコーディングフォーマット：	Ver. 7、7.1、8、9、10、11 (2 ch audio) (Windows Media Player)
MP3デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
AACデコーディングフォーマット：	MPEG-4 AAC (Ver. 7.7以前のiTunesでエンコードされたもののみ)
WAVシグナルフォーマット：	Linear-PCM、MS ADPCM

USB部

USB規格：	USB 2.0 Full Speed
最大供給電流：	500 mA
最大メモリ容量：	250 GB
最小メモリ容量：	256 MB
ファイルシステム：	FAT16、FAT32
WMAデコーディングフォーマット：	Ver. 7、7.1、8、9、10、11 (2 ch audio) (Windows Media Player)
MP3デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
AACデコーディングフォーマット：	MPEG-4 AAC (Ver. 7.7以前のiTunesでエンコードされたもののみ)
WAVシグナルフォーマット：	Linear-PCM、MS ADPCM

FMチューナー部

受信周波数帯域：	76.0 MHz ~ 90.0 MHz
実用感度：	9 dBf (0.8 μ V / 75 Ω 、モノラル、S/N : 30 dB)
S/N：	72 dB (IHF-Aネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf入力、1 kHz、ステレオ) 0.1 % (65 dBf入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：	30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度：	25 μ V (S/N : 20 dB)
S/N：	62 dB (IHF-Aネットワーク)

付属品

コードユニット：	1式
取付ネジ類：	1式
取扱説明書：	1
取付説明書：	1
安全上のご注意：	1
保証書：	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：	1



メモ

●商品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

- お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00
土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話  **0120-5-81028**

【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品 (付属品・リモコン・取扱説明書など) のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00
土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話  **0120-5-81095**

【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス  **0120-5-81096**

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

- 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9：30～18：00
土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

- カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111**

【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など